



Vol.43
 発行所
 大分県立竹田高等学校
 同窓会事務局
 〒878-0013
 大分県竹田市大字竹田2642番地
 TEL 0974-63-3401
 FAX 0974-63-1865
<http://kou.oita-ed.jp/taketa/>
 印刷
 株式会社 竹田支店

学びの変化



竹田高等学校同窓会 会長
 十九期生（昭和四十二年卒）
 服部 眞二

新時代を期待するなか、令和元年が始まりました。

竹田高校同窓会会員の皆様方には、ご健勝のことと心よりお慶び申し上げますと共に全国各地域でのご活躍に敬意を表します。又、日頃より本同窓会活動並びに母校の充実、発展に対しての多大なご協力、ご支援に感謝とお礼を申し上げます。

さて、同窓会も本年会員相互の親睦や絆を深めるために、各地域で同窓会が活発に開催されました。2月に県職員でつくる県庁臥牛城会が開催。6月には関東同窓会が菅会長

の元、東京プリンスホテルにて250名を超える会員の参加の中開催。東海豊後竹田会が山本会長の元、名古屋にて開催。10月には大分、別府同窓会が上村新会長の元で開催。又新たに再出発した関西同窓会も4回目の同窓会を本田会長を中心に開催。大いに盛り上がりました。12月には福岡竹田会が、末吉会長の元、博多で開催。懇親を深め、竹田高校の将来へ期待する思い、同窓会への提言など会場とも大いに盛り上がりました。又本校同窓会を中心に開催されている関東竹田会、大阪豊後

竹田会、東海県人会などふる里会も開会されました。志を立てて郷閩を出た方々の母校やふる里に対する思いの強さを感じた次第です。本同窓会も7月6日午後3時よりホテル岩城屋にて本年度当番幹事24期、25期、34期、35期の期別の方々を中心に総会、懇親会を開催。生徒発表では海外派遣事業「ベトナム研修報告」アトラクションとして53年卒業東京藝大を卒業後、本場イタリアでオペラを学び、イタリアで活躍その活動の場を日本にも広げ「銀河の歌姫」と言われる倉原佳子さんの迫力ある感動の歌声を堪能した所です。今回、学校行事と開催時間が調整がとれず生徒発表が一部出来なかったことを反省し、次回に生かして行きます。

全体の同窓会を見た時、若い世代特に平成世代の卒業生の参加が少なく今後、平成世代の参加率を上げていき、世代のバランスの良い同窓会活動へと繋げていく取り組みを地域同窓会の方々とともに検討していく必要性を思ったところです。

又、各期別の同期会も竹楽などのイベントに合わせて開催され、竹田の賑わいづくりの一助となりました。特に卒業30周年を開催された平成一年度卒業（第41期）河野洋史実行委員長より皆様方を代表され、育英基金としてご寄付いただきました。後輩、母校に対して暖かいご支援に対してお礼申し上げます。

創立100周年から続いています同窓会海外派遣事業も本年7月31日（火）〜8月4日（土）に2年生4名、1年生2名がベトナム・ハノイへ派遣いたしました。生徒達は異なった生活体験や日本、竹田の紹介、交流を通して、ベトナムへの理解を深めるとともに、今回訪問したベトナム大使館での講話を聞き、国際的な物の考え方、視野を持つことの世界観を学んだことは生徒の今後にとって、学びの意欲に繋がることとなるに違いありません。

本事業も22年を経てその間日本人、竹田高校生としてのアイデンティティを高め、日本の文化、竹田地域の歴史文化を交流を通して発信してきました。グローバル化への日本の文化、伝統、歴史について理解を深めるとともに、豊国への文化、伝統、歴史への他者理解を深めていった取り組みとなりました。しかし、英語を使う機会、国際的、世界的な学び、問題解決力などの育成までには至っていないのが現状です。又、竹田高校を取り巻く社会も少子化が著しく進む中、令和2年度の募集定員も20名減となり、今後も厳しい状況となる課題に直面していく一方、社会の多様な場面でグローバル化はますます進む中、世界に通用する人材、未来を切り拓く人材の育成が必ず求められます。この課題を解決するツールとして、国際バカロレアの教育プログラムが高く評価、活用されています。このバカロレア認定のために同窓会としても今後研究、議論を深めていきたい

と思います。

竹田高校にとって必要なことは、藩校から時代を越えて受け継がれてきた「学び」の伝統に根ざした高い志を育み、地域の文化、歴史に誇りを継承し続ける教育力を人づくりの資源として、竹田高校にしかない、竹田高校でしか学べない教育へと進化させ、竹田高校の足元を世界の中心にみずえる学校でと力を高めていくことで、地域の学校として新たな価値を生みだし新しい魅力として生徒が集まり、さらには地域に活力が生まれる新しい教育文化の創生となる国際バカロレア認定への歩みを始めます。

「10 年先、20 年先にこの地域から学校がなくなるかもしれない」危機感しかし「何があっても学校を守り育てつづける」信念この二極の感覚、感性を持ちつづけることは、明日へ、未来へ、竹田高校が持続可能なための大きな力となるにちがひありません。

学校、同窓会、PTA と一体的に行動し、さらには大分県、大分県教育委員会、竹田市、竹田市教育委員会はじめ各方

面に対しても、要望、要請、協力をお願いし、竹田高校を守り育てる所存です。その為にも会員皆様方の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

心豊かな人々に 囲まれて 幸せにすごす



大分県立竹田高等学校

校長 木戸 孝明

伝統ある竹田高等学校の校長として赴任して3年目を迎えました。多くの同窓生の熱い想いが込められた支援を賜り、多種多彩な取り組みを実施することができています。

8月の同窓会の支援による生徒海外派遣授業でのベトナム研修（令和元年度は生徒8名派遣）例年12月の2年生の修学旅行では関東同窓会の方々との交流会、更には里見

奨学会・学林会をはじめ各種奨学金での支援等、有為な人材を育むため同窓会・同窓生が学校と一体となって本校の教育を支援していただいています。

さて、平成31年3月に卒業した71期生147名の進路状況ですが、国公立大学合格は50名でした（昨年は43名）。私立大学が99名（昨年71名）、短期大学・専門学校が54名（昨年66名）、その他（県警・役場・消防等）9名となっておりますが、そのほとんど九州管内でした。赴任してから2年間、同窓生の方々から「もつと関東等、外に出るよう学校が生徒の背中を押さなければ」と言われ続けていますがなかなか思うようにいきません。背中を押す先生方の言葉に、熊本大学・大分大学・県内での公務員を軸にした人生設計をしっかりと話す生徒の姿を多々見てきました。今後も高校入学時から広い視野・最新の考え方を保護者を含めて粘り強く提示していきたいと考えます。

次に生徒募集状況ですが、160名の定員に対して152名（推薦入試8名・一次入試140名・二次入試4名）竹田市からは86名、豊後大野市から63名、熊本県の産山学園より3名）の入学となり6年連続の定員割れとなりましたが当初の予想よりは多く、地域・教職員の努力が実った形となりました。今年度は竹田市の中学3年生が昨年度より24名減で、大分県全体でもこの2年で大きく減少します。この9月に、来年度の定員の発表があり県内の多くの高校が定員減になる中、竹田高校も40名4クラスが35名4クラス、20名減となりました。昨年同様、この定員を充足すべく、4月当初から精力的に生徒募集活動を行っています。

実施しています。今後信頼される学校づくりを更に進めていきます。

部活動では、山岳部登山競技のインターハイ出場、同クライミング競技の国体出場、陸上部では競歩とやり投げが北九州大会に出場、書道・吟詠部の全国高等学校総合文化祭の出場、文芸部の全九州高等学校文化祭出場等輝かしい成果を出しています。また、昨年より連続してコンクールで金賞を獲得している器楽部や力をつけている弓道部、更には新設されたサッカー部や男子バスケットボール同好会は部員も多く生徒募集に大いに貢献してくれています。

新大学入試制度が現高校2年生から導入される中、個々の生徒の進路希望達成はもちろんのこと、100年近くの長い人生を心豊かな人々に囲まれて幸せに過ごすことを最終目標にして、以下の学校教育目標の達成をこれからも図っていきます。

①主体性をもって多様な人々と協働して学び、自分の意見を持ち行動できる力を育成する。（更には自分の考えを



相手に確実に伝える表現力を育成する。)

②生徒の健康と安全を徹底し、規範意識を養い、基本的な生活習慣を確立する。

③特別活動や体験活動及び人権・同和教育等を充実し、思いやりの心・豊かな心を育てる。

最後になりますが、「自律自尊」「進取研鑽」「和衷協同」の校訓のもと、地域に信頼され、愛され、選ばれる学校への足取りを確かなものとしていきます。令和の冒頭にあたり皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

ドイツが取り持つ「ご縁」

去る9月2日の大分合同新聞に、ドイツからルッツ・花さんが本校へ短期留学に来たという記事が載りました。それを見た大分ヤナセ株式会社取締役会長である中野秀勝様（竹田高校昭和27年卒）から、ドイツ車を扱う弊社と花さんが母校に留学するご縁を感じ、歓迎したいという旨のお手紙を頂きました。

そして、大分ヤナセ株式会社様から花さんに贈り物が届きました。



り) 2019年(令和元年)9月2日 月曜日

父の思い出体験



左から左にルッツ・花さん、ルッツさん、(右)竹田市市長

ドイツ人花・ルッツさん竹田に留学

温泉、人の温かみに触れる

父が通った竹田市を知らずと、ドイツ人の花・ルッツさん(16)と、真IIが8月から、竹田高(木戸孝明校長、45才)人に短期留学している。2学期が終わる12月下旬まで日本の高校生活を体験。勉強、スポーツに励み、地域との触れ合いを楽しんでいる。

父ルディガさん(53)は信直入町で1999年7月から2年間、国際交流協会を務めた。ドイツ北部のプラウンシュバイクに一家5人で暮らす。

花さんは父から「竹田市は温泉があつて人が温かいて、温泉を自分の目で見てほしい」と話した。

(原田宏一)

さんから連絡を受けた市が受け入れ先を調整。市内秋町西福寺のホームステイ先からJ-Rで通学している。

大阪府出身の母衣江さん(48)に日本語を学び、日常会話に不自由はない。8月21日の始業式後、1年2組39人のクラスメートとすべに仲良くなった。「昔からの友達みたい。しぐさがキユー」と上藤にちかさん(15)。

授業中、黒板の文字は濡らした布でノートへ書き写す花さん。通訳ができるレズル(48)の日本語能力検定N2合格を自記す。放課後はN2合格者講習の練習を取り組む。休日に長湯温泉などを巡り、「みんな優しい。父が好きで地域である理由が分かり始めた」と笑

木戸孝明校長殿

突然のお手紙お許しください。

私は昭和27年竹田高校卒の中野(旧姓、甲斐秀勝)と申します。

爾來、67年多くの人に教えられ、助けられながら、年齢は85歳となりました。

仕事は、大分ヤナセ株式会社で設立から57年働いてきました。ヤナセの主たる業務は輸入自動車の販売とサービスです。クルマはドイツのメルセデスベンツとアウディです。多発する事故を心配し安全な車をお届けしたいと思い今日まで頑張ってきました。ベンツビジネスも初めて42年になりました。

去る9月2日、大分合同新聞にドイツ人花・ルッツさん竹田高校に留学と大きく報道されました。

我、私の母校に一方ならぬお世話になっている自動車の生産国、ドイツの学生が留学なされたことは、大きな喜びと共に心から、歓迎したく思いました。12月下旬までのようですが健康に留意して竹田高校での生活を満喫なさるようにルッツさんにお伝えください。歓迎のしるしに粗品ですがお届けします。ルッツさんにお渡しください。

尚、大分の方へお出かけのときは是非ご連絡ください。会社にもお訪ねください。

尚、私の息子中野通孝、当社社長は、大分上野が丘高校のPTAの会長を務めています。

竹田高校の限りないご発展を心よりご祈念申し上げます。

大分ヤナセ株式会社取締役会長 中野秀勝

竹田高校活動状況報告

同窓会海外派遣事業

大分県立竹田高等学校 二年 帆足 洸希

今回、私たち 8 名は 7 月 31 日から 8 月 4 日まで同窓会海外派遣事業に参加しベトナム社会主義共和国へ研修に行ってきました。

研修をするにあたり私たちは事前にベトナムについての学習をし、そのうえで研修へ臨みました。

実際にベトナムへ行ってみると、事前の学習では伝わってこなかったものを多く感じることができました。

今回はベトナムの歴史・文化・日本とのつながりなどについての研修をしてきたのですが、その中でも私はやはり歴史や人々についてとても驚きを感じました。

植民地時代からベトナム戦争、そして現代へとベトナムの人の努力や苦しみを実際に訪れることにより、肌で感じることができました。

それにより大きな成果が得られ、これからも日々の学習だけでなく、様々なことに取り組むよききっかけとなりました。

最後になりましたが、今回の研修にお力添えいただきました先生方、並びに同窓会の方々、関係者様、本当にありがとうございます。



ハノイ訪問竹田高校生



NTT コミュニケーションズハノイデータセンタ

古里の思いを胸に、 大分の未来への発展に向けて

三十八期生（昭和六十一年卒）

大分県会議員 木田 昇

平成に改元後すぐに「バブル」が崩壊し、大学卒業後に

竹田へ帰郷していた時、平成

2 年の「竹田大水害」に見舞

われました。近頃、「50 年に一

度」といわれる集中豪雨が頻

発していますが、当時の雨量

も大変なものでした。市域全

体が大変な被害を受け、私の

生まれ育った田町の自宅や家

業の工場も水に浸かりました。

その年、災害復旧のため、

竹田市役所の臨時職員として

従事し、平成 3 年に大分市役

所に入職しました。以降、大

分市職員として約 24 年間の行

政経験を重ねましたが、様々

な方から県議選への出場を請

われ、職を辞して県政へ挑戦

する決意を固めました。

政治経験のない私にとって

誠に険しい道程でしたが、竹

田高校の先輩や同窓の皆様か

ら心温まるご支援を頂き、県

議会の議席を得た今、感謝の

気持ちでいっぱいです。

私の高校時代を振り返ると、

学校林の下刈り、文化祭や強

歩大会など楽しい思い出も多

いですが、決して平坦なもの

でなかっただけに、お世話に

なつた恩師、支えてくれた友

の事は生涯忘れることのでき

ない思い出です。岡城の麓で

学んだ竹田高校時代がなければ、

難関の公務員試験も県議

会議員選挙も決して乗り越え

られなかったと思います。

平成の時代が幕を閉じまし

たが、科学や情報通信技術の

発達により、社会は随分と様

変わりしたものです。今後、A

I やロボットが様々な分野で

活用され、生活の利便性も増

すとは思いますが、先端技術

を駆使しても人の温もりまで

は補うことはできません。人

と人とが温もりある人情で通

じ合い、助け合い・支え合い

ながら地域で暮らせる社会で

あり続けなければなりません。

ラクビー W 杯や東京オリン

ピック・パラリンピックの開

催など、大分の魅力・活力を

さらに発展させる好機ですが、

一方では、頻発・激甚化する

自然災害にもしつかりと備え

る必要があります。そして、

地方創生や加速化する人口減

少には、新たな視点からの政

策提案・投資も求められると

思います。

県政二期目の任期となり、

会派では幹事長の任務を拝命

し、委員会や協議会で果たす

べき役割も増え、使命感に駆

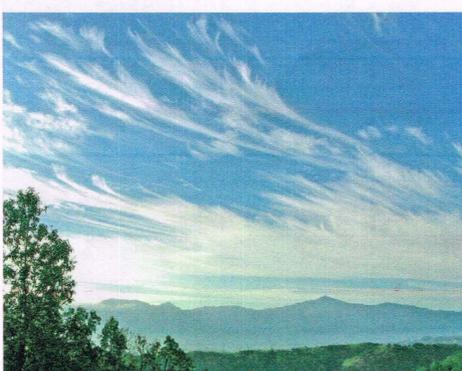
られます。未来への大分、そ

して母校発展のため研鑽・努

力を重ね、様々な課題解決に

全力で頑張っていきたいと思

います。



ふるさととは遠きにありて思うもの

十七期生（昭和四十年卒）

関東同窓会 会長 菅 博敏

「ふるさととは遠きにありて思うもの」とは、室生犀星の「情景異情」と題された詩の一節です。

私は、竹田市（旧直入郡荻町）の出身ですが、高校まで生活した実家、所謂ふるさととは遠くになつてしまいました。

と申しますのも、竹田高校卒業後防衛大学校に進学し、自衛官として日本全国を渡り歩く転勤族の仲間入りをした関係もあり、30代後半に差しかけた頃、年々老いていく両親を見て長男である私は、実家を引き払い大分市の郊外に転居することにしました。

帰郷時懐かしさのあまり、両親と一緒に何度か荻町の実家を見に行くことがありましたが、現在はお墓も我が家の近くに移したので、20年以上ご無沙汰状態です。

私にとつてふるさとの思い出は、荻町の実家における祖父・両親・妹との生活、約4K

の道のりを歩いて通い続けた小・中学校、受験勉強に終始した高校生活等です。

東京在住の現在は、子供の頃の思い出がふるさとそのものなのです。

私は陸上自衛官として約37年間奉職（この間引越し13回、単身赴任3回）、第一線部隊から運用・行政に係る中央での勤務を経て、東部方面総監を最後に平成16年に退官しました。

退官時の心境は、国防という崇高な仕事をやり遂げたという達成感と、これで引越してから開放されるという安堵感でした。

退官後しばらくして、竹田高等学校関東同窓会の方からお誘いがあり、現在は第8代会長を拝命しております。

関東同窓会は、在京OB等からの同窓会設立機運の高まりを背景に、竹田会から独立、昭和62年5月30日「会員相互

の親睦を図り、母校の発展を期す」を理念とし、1年以上の準備期間を経て設立されました。

会員は、約2000名（維持会費を収めていただける維持会員は約500名）、活動内容としては、総会・懇親会の開催（1回/年）、会報誌「臥牛」の発行（2回/年）、HPの開設、母校への貢献として、修学旅行

生との交流会（ホテルにおいて、OBの体験談、学生との懇親等）及び竹田高等学校図書室に開設した大志文庫への書物の寄贈等でありますが、特に総会・懇親会は、約250名が参加、竹田高等学校校長、竹田市長をはじめ市の関係者、高校の恩師、現役の大学生、在京大分県各高校の会長等のご出席をいただき盛大に実施しております。

このように全国に誇れる同窓会に発展した背景には、歴代の会長・役員・会員の方々の郷土・母校に対する愛情、同窓会に対する熱い思いと行動力があり、心から敬意を表したいと思えます。

しかしながら、将来を見据えた時にいくつかの課題もあ

ります。

会員の高齢化と人員減少に伴う会員の増強、運営資金である維持会費の安定的・継続的な確保、会員相互のさらなる親睦の推進、定員割れの続いている母校への支援のあり方、そして同窓会魅力化の方策等であります。

特に母校の活性化・魅力化による進学校としての維持・発展については、竹田高等学校、竹田市役所、竹田高等学校同窓会等が丸となつて検討、対策を講じているところであります

が、関東同窓会といたしまして

もしてもできる限りのご支援・ご協力を実施したいと考えております。

最後になりましたが、郷土竹田、母校竹田高等学校そして、子供

の頃の懐かしい思い出を、関東という遠きにありて思いながら竹田高等学校及び同窓会からさらなる充実・発展を心からご祈念申し上げたいと思えます。



第4回を迎えた竹田高校関西同窓会

十八期生（昭和四十一年卒）
 関西同窓会 会長 本田 健三

竹田高等学校関西同窓会は30数年前に発足し、数回の集まりはありましたがその後自然消滅となり、このたび長年のブランクがありました。竹田高校同窓会本部の服部眞二会長や東海大分県人会の山本英次会長らが、関西豊後竹田会に来阪の際、何とか竹田高校関西同窓会を再出発させたいとのことで会合を開き、同窓会本部の進められてきた方向性を基軸としながら4年前に再出発し、今年度、令和元年、第4回目の竹田高校関西同窓会を開催することができました。

今年、10月6日（土）に竹田市役所から市長代理で教育総務部工藤哲郎様、竹田高校同窓会本部の服部眞二会長と堀幸子副会長、竹田高校の木戸孝明校長並びに関東、東海から多くの来賓の方々のご参加を頂き開催しました。工藤様からは、中九州横断

道路が竹田まで開通し、大分まで50分ほどで行けること、また竹田の観光、人口減少をいかに食い止め、活力ある竹田にするかの説明がありました。

服部眞二会長からは、母校が創立120周年を迎え、これからの高校の発展と、海外派遣事業でベトナムでの研修について説明がありました。

木戸校長からは、今年の卒業予定者の進学希望者の共通一次試験（京都大学希望者もいます）が思わしくなかった模様であること。クラブ活動では山岳部が国体参加したこと。吹奏楽部の活躍と、指導者の先生が転勤になることなどを伺いました。また今年はラクビーのワールドカップが大変な盛り上がりを見せましたが、高校の部活ではサッカー部とラクビー部のどちらかを残すかで、多くの先輩OBの方々からも意見を聞き検討を

を重ねました。最終的にサッカー部を存続し、ラクビー部は廃部で幕を引くことになったこと。等のお話がありました。

また、今の卒業生は地元での定着型が多いとのことでした。我々の時代（昭和40年代）は、兄弟が多く、長男以外は都会に行くのが当たり前で、地元で就職するにしても就職先はあまりありませんでした。

現在関西での同窓生が800人ほどいます。各界にも多くの方々が活躍されています。それぞれに皆さんの若い力で夢を追い求めてください。次世代の活躍を期待します。

その後懇親会となり、毎年アトラクションを企画していますが、今年にはソプラノ歌手をお呼びし、瀧廉太郎作曲の『花』『荒城の月』の他、クラシックやミュージカルソングを披露してもらいました。恒例のストームそして『校歌斉唱』『万歳三唱』懐かしさの感情が沸々と湧き上がる中、お開きとなりました。同窓会で数10年ぶりに友に会うと昔の思い出が、小学校、中学校、村や町、豊後竹田から

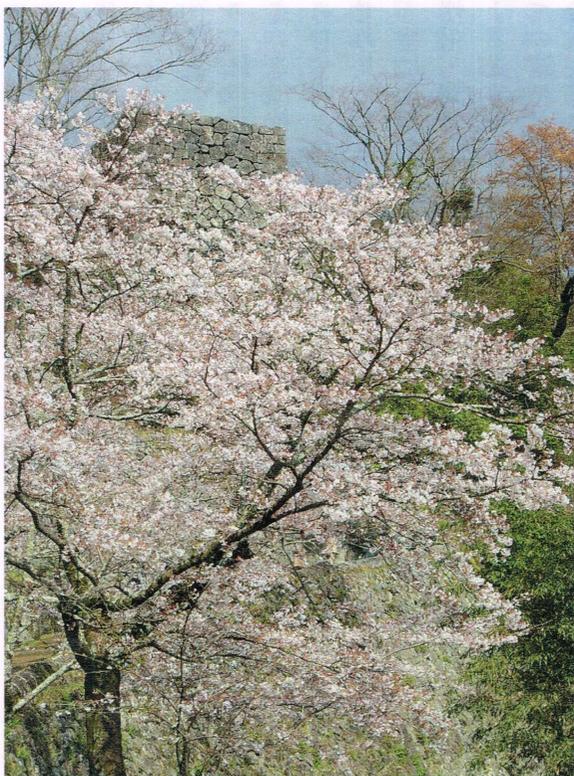
見る祖母の山々、広大な九重連山、豊かなる大自然、春夏秋冬、暖かく我を育んでくれた「竹田」がよみがえり、感激で思わず、感涙に浸ります。またシニアの話題は健康のことでも体調に不安があり、どこが悪かったが今は回復した。誰々さんは入院している。また退院したなどのお話です。

そんな中、シニアの女性は皆さん、元気で若々しくきれいです。自信たっぷり振る舞う姿には元気をもらいます。通信はがきのコメントでは、体調不良で今回は欠席。また配偶者のお世話で家を空けら

れないので今回は出席できません。『ごめんなさい』等のメッセージがありました。また、ご家族からご本人は、他界したとの連絡もあり寂しくなります。ご冥福を祈るばかりです。

先日、関西同窓会ゴルフ会を開き和気藹々楽しい一日を過ごすことができました。ゴルフだけでなく、健康や認知症予防に山歩きや囲碁、将棋、娯楽などの同好会が生まれる機会があればいいものです。

皆様の御健勝と好いこと多くかれと、心より願います。



「備えよ常に」

十九期生（昭和四十二年卒）

大分県公安委員会委員 板井 良助

この言葉はある団体の標語でした。時折反省時に思い出します。

「チャリティービギンズアットホーム」は慈善は身近なところから、英語の副読本の表題でした。

今年古希を迎え、級友が欠けて行く年齢に達して、高校との関わりをふり返ってみました。

高校時代に生徒会とは別に当時高校生のオートバイ事故の多発する状況に、「交通安全の会」なる組織を高校生の自主的な発意で創設し、警察署に相談し市内の高校2校にも

連携の輪を広げました。通学以外の運転は禁止の方向に進み高校生の事故防止に効果を上げたことを記憶しています。高校の組織とはいえ、校門を出て初めて身近なところから地域の社会活動に参加した体験でした。

成人して4人の子育て世代

になるとPTA活動等で竹田幼稚園、竹田小中学校では「親父の会」を中学校区で創設し将来の学校統合に備えました。

このことは身近なところから相互理解が進み効果は抜群でした。高校では、県立高校と地域との壁を低くすることの試みとして、臥牛祭のクラス演技の中から選抜して三日月観月祭の薪能の舞台で市民に披露して地元の高校生の頑張りを見て頂き、交流の場とさせていただきました。

一方では東京の関東同窓会の10周年記念総会に我々「竹田の未来を考える会」で企画し、会長の世界企業の東芝EMI会長高宮様、担当の蒼々たる26会の大先輩諸氏のご厚意で、竹田を振興するシンポジウムを開催し、母校や故郷に関心を集めました。

その後、関東同窓会の20周年行事には器楽部に招待があり、全員参加を目標に不足分

を保護者会で積立て準備し、総会当日の心の通う感動を呼ぶ演奏に温かい感謝のお言葉を沢山の方から頂きました。

東京では全国レベルの都立杉並高校器楽部との音楽交流や日本フィルの演奏会をコンサートホールで体験しました。きつと記憶に残る経験として生徒さんに生かされたものと信じます。先輩たちやPTA仲間の協力で、身近なところから始まりました。

さて数年前には我々の学年の担当年の母校同窓会で、「竹田高校の将来」をテーマに、シンポジウムを開催しました。校長の運営方針に、副市長、県議、同窓会長の意見交換、学年代表の私が司会とまとめを致しました。隠岐の島の島前高校の先進例が重要な議題でした。当時県立高校の運営に地元の行政が関与することが可能になる法改正があり、備えていた地域で動き始めた時期でした。存続が危ぶまれるほどの過疎地の離島の高校が、地域住民の知恵と工夫で行政や政府を揺り動かして、全国から生徒が募集に応募して、高校も地域も成功の道を歩ん

でいます。このシンポジウムの内容は参加者から絶賛され、同窓会に広く公表される予定でしたが残念ながら未だなされていません。島前高校についての最新の情報はインターネットでご覧ください。

来春、南部中学校に在学していた知人の娘さんが島前高校に進学すると聞き、いよいよ身近な存在となりました。同窓会役員の情報では、竹田高校の具体的な将来像に関する研修が始まると聞いています。これからは、開かれた議論を期待します。身近なところから、始めたい。「備えよ常に」です。高校の存続についての状況は厳しさを増しています。

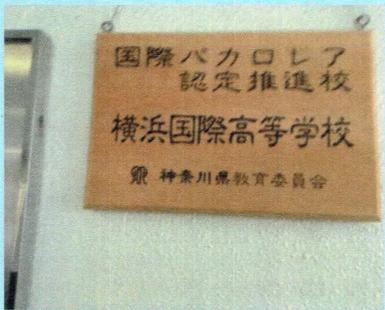
最近、SNSでの交流サイトで、児童、生徒を巻き込む犯罪が多発しています。私も関与する県警の対策も後手に回るような各地の状況であります。公安委員会、警察のみならず、教育委員会等の関係機関での連携が重要です。広域であり、県境を越えての連携が重要視されています。地域の動きとして、お隣の熊本県公安委員会がスマー

トフォンの犯罪防止に、使用上の注意を促す教本を作成し、成人と高校用に配布したという事例の発表がありました。全国でも早い取り組みですが、関心を持ったのは山鹿高校の生徒会がこの教本を活用して生徒自ら犯罪防止に立ち上がったという事です。素晴らしい活動で、全国大会で発表されるという事です。自ら、身近な友達を救う、温かい手を差し伸べるといふ時機を得た活動ですね。「備えよ常に」です。

生徒の身近な場所から、家庭や学校から始める。学校は学業ばかりではなく社会活動も「アクティビティービギンズアットスクール」ですね。竹田ロータリークラブでは竹田高校と提携してインターアクトクラブの活動を提唱しています。自主的な活動を期待しています。

生徒さんには、これから人類が経験したことのないような社会が到来すると言われています。ローカルな文化や伝統を受け継ぎながら、AIやIoTの活用と共存を図りながら、変化を先取り受容し、自

バカロレア認定校 県立横浜国際高等学校



- Risk Taker 挑戦する人 ● Principal 信念のある人
- Communications コミュニケーションができる人
- Knowledgeable 知識のある人 ● Balanced バランスのある人
- Thinkers 考える人 ● Reflective 振り返りができる人
- Caring 思いやりがある人 ● Inquires 探求する人
- Open-minded 心開く人

国際バカロレア認定校 福岡第一高等学校 (私立高校)



バカロレア担当の先生と

少人数による英語での授業

現在、竹田高校同窓会は、付加価値、生徒数確保に向けて、インターナショナルバカロレア（IB校）の認定校になるべく、IB校に関して、県や、竹田高校への説

明、他市の同窓会への説明、他県のIB校（横浜国際高校・福岡第一高等学校）を訪問、ライジング社へ高校変革の必要性の説明を行っております。認定校（国際科新設）になれば、国内外からの生徒確保、ハイレベルな授業、知識中心から思考方法への転換、外国でも通用するグローバルな人材育成、しいては竹田がグローバルシティになるうかと思えます。歴史、文化の深い竹田市、関一楽からの学問の府、由学館、修道館、そして竹田高校と江戸時代から学問への姿勢は熱く、今まさにその精神を受け継いで、グローバル化時代の波に、情報化の波から、さらに生活環境の利便性を求めるSociety 5.0という波に対応するために、高校も市も県も、地方創生を含めて至急大きくかじ取りする必要にせまられています。

田市の過疎化が加速します。竹田高校を存続させること、そのための付加価値化による生徒数確保は愁眉の課題であります。田市の過疎化が加速します。竹田高校を存続させること、そのための付加価値化による生徒数確保は愁眉の課題であります。

然災害や危険から、サイバー空間にも、安心、安全な環境を構築するというような挑戦を、社会を洞察した学びの中から進んで行なうて頂きたい。皆さんの明るい将来に期待しています。



現在竹田高校は、少子高齢化の波にさらされており、定員割れが続いている状況であり、このまま、推移していくと他校との合併、市の存続も危ぶまれてきます。いわゆる限界市になり、一気にすたれ

ていく構図になっていってま。竹田高校の位置づけも、従来の学びの舎から、大きく様変わりしてしています。高校がなくなれば、中学へ、小学校へいく生徒も家族も、便利さを考え、他市に移り、竹

田市の過疎化が加速します。竹田高校を存続させること、そのための付加価値化による生徒数確保は愁眉の課題であります。

インターナショナル

バカロレア認定校にむけて

二十一期生（昭和四十四年卒） 阿南 修平

同窓会役員紹介

- 顧問 田北 和義
- 会長 服部 眞二
- 副会長 堀 幸子
- 事務局長 和田 民子
- 事務局員 工藤 英幸
- 会計 赤嶺 洋一
- 監事 高橋 功
- 学校監事 合澤 哲郎

編集後記

今年、台風の影響で、各地に災害をもたらし、一方農産物では、異常にウンカが発生、沢山の田んぼが被害を受けました。今回の編集では、他会長、県会議員の投稿もお願いしました。竹田市内では、無電柱化が推進され、現在、「竹田市城下町交流プラザ」や、「歴史文化交流センター」の建設が進行中です。来年には竹田市内の装いが大きく変わります。 広報担当 阿南修平